

平成 30 年 12 月

第 28 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 28 回日本医療薬学会年会
年会長 千堂 年昭
岡山大学病院 教授・薬剤部長

事業名：第 28 回日本医療薬学会年会

主催者名：一般社団法人日本医療薬学会

年会長：千堂年昭（岡山大学病院 教授・薬剤部長）

会 頭：奥田真弘（三重大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

後 援：一般社団法人日本病院薬剤師会、公益社団法人日本薬剤師会、
岡山県病院薬剤師会、一般社団法人兵庫県病院薬剤師会、
一般社団法人岡山県薬剤師会、一般社団法人兵庫県薬剤師会、
日本薬科機器協会

実施日程：平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）～25 日（日）

実施場所：神戸コンベンションセンター

神戸国際会議場	〒650-0046	神戸市中央区港島中町 6-9-1
神戸国際展示場	〒650-0046	神戸市中央区港島中町 6-11-1
神戸ポートピアホテル	〒650-0046	神戸市中央区港島中町 6-10-1

会場数 口演会場：16 会場

ワークショップ会場：1 会場（日本薬科機器協会ワークショップ）

ポスター会場：2 会場

展示会場：2 会場

年会の趣旨

第 28 回日本医療薬学会年会を、平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）～25 日（日）の 3 日間、神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル本館（兵庫県神戸市）において開催した。

日本における医療の進歩は目覚ましいものがあり、医療における薬剤師の役割も大きく変革してきた。以前の医薬品の供給する専門職としての立場に加え、現在ではチーム医療や病診薬連携を基にした薬物療法に関するスペシャリストとして医療現場において大きな役割を担う様になった。また、薬学教育における医療薬学の充実にも関与し、求められる職能と役割はますます重要なものとなっている。さらに、地域包括ケアの実現に向けて、薬剤師が地域医療や在宅医療に関わりに一層貢献することを期待

されている。医療が高度化する中、医療現場の一員として薬物療法の安全性・有効性に寄与する中で医療薬学領域での研究成果を上げていく必要を求められている。そのためにも次世代を担う人材育成も重要と考える。これらの状況を踏まえ、第28回年会のテーマを「医療薬学の持続的進化のための新たなパラダイム構築 ～教育・臨床業務・研究～」とした。

本年会では現在、最先端の医療や研究でご活躍されている3名の先生を特別講演に、また2名の先生を教育講演にお招きした。また、近年話題となっているAI（人工知能）に関する特別企画シンポジウムも企画し、近年のニーズに即した最新のテーマを中心に開催した。公募シンポジウムは応募数99件の応募をいただき、66件を採択した。一般演題については口頭発表が360題、ポスター発表については1386題を採択した。その他、国際シンポジウム、各学会賞受賞講演、市民公開講座も最新の内容を企画した。

本年会は、昨年に引き続き会期を3日間に延長し、ゆとりあるプログラム編成を心がけた。講演要旨集はWebとアプリのみとし、冊子体は持ち運びがしやすいようにプログラム集とした。会場には可能な限り広い部屋を使用するとともに、会場に入りきらなかった聴衆のために中継会場や室外のモニターを設置し、参加者の利便性向上に努めた。加えて託児室の整備などについても配慮した。

会費等の設定：

参加費	正会員	非会員	学生	懇親会	一般	学生
事前参加登録	9,000円	13,000円	3,000円	事前参加登録	8,000円	4,000円
当日参加登録	13,000円	16,000円	4,000円	当日参加登録	10,000円	5,000円

プログラム集：2,000円（当日）、2,500円（事前：郵送費含む）

市民公開講座：無料

事業内容：

- 1、メインテーマ『医療薬学の持続的進化のための新たなパラダイム構築 ～教育・臨床業務・研究～』
- 2、年会長講演 1題
- 3、特別講演 3題
- 4、教育講演 2題
- 5、日本医療薬学会 学術貢献賞・奨励賞受賞講演 4題
- 6、日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演 5題
- 7、特別企画シンポジウム 1セッション
- 8、International Symposium (国際シンポジウム) 2セッション
- 9、シンポジウム (公募) 66セッション
- 10、ワークショップ 3セッション
- 11、市民公開講座 1セッション
- 12、CJK Joint Symposium for Clinical Information on Parenteral Drugs
(第16回日中韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム) 1セッション
- 13、一般演題 1,746題
 - 1) 口頭 360題
(うち優秀演題候補50題)
 - 2) ポスター1,386題
- 14、International Poster 18題

15、平成 30 年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会／学術フォーラム

16、共催セミナー 43 セッション

17、日本薬科機器協会ワークショップ

参加者数:

	参加登録				懇親会	
	正会員	非会員	学生	海外	一般	学生
事前登録	5,825	1,768	137	-	343	2
当日登録	570	977	93	48	55	-
計	9,418 名				400 名	

プログラム集：2,000 円（当日）、2,500 円（事前：郵送費含む）

市民公開講座：無料

運営組織：

年会長 千堂 年昭 岡山大学病院
組織委員長 北村 佳久 岡山大学病院
副組織委員長 岡崎 昌利 岡山大学病院
名和 秀起 岡山大学病院
橋田 亨 神戸市立医療センター中央市民病院
村川 公央 岡山大学病院

〈組織委員〉

天野 学 兵庫医療大学	島添 隆雄 九州大学
荒木 博陽 就実大学	島田 美樹 鳥取大学医学部附属病院
有吉 範高 岡山大学	田中 亮裕 愛媛大学医学部附属病院
家入 一郎 九州大学	手嶋 大輔 就実大学
石澤 啓介 徳島大学	寺田 智祐 滋賀医科大学医学部附属病院
内田 享弘 武庫川女子大学	徳山 尚吾 神戸学院大学
江川 孝 福岡大学	直良 浩司 島根大学医学部附属病院
大戸 茂弘 九州大学	名倉 弘哲 岡山大学
小澤 孝一郎 広島大学	芳地 一 香川大学医学部附属病院
折井 孝男 河北総合病院	堀部 徹 岡山県薬剤師会
神村 英利 福岡大学	増田 智先 九州大学病院
金 啓二 神戸朝日病院	松尾 裕彰 広島大学病院
窪田 敏夫 第一薬科大学	宮村 充彦 高知大学医学部附属病院
黒崎 勇二 岡山大学	森山 雅弘 兵庫医療大学
柴田 和彦 松山大学	矢野 育子 神戸大学医学部附属病院

〈実行委員〉

赤木 晋介 倉敷中央病院	江角 悟 岡山大学病院
池末 裕明 神戸市立医療センター中央市民病院	岡本 禎晃 市立芦屋病院
出石 啓治 株式会社出石薬局	小川 敦 岡山大学病院
猪田 宏美 岡山大学病院	鍛冶園 誠 岡山大学病院
市川 裕規 岡山大学病院	河崎 陽一 岡山大学病院
内田 まよこ 大阪薬科大学	川上 恭弘 岡山済生会総合病院
畝井 浩子 広島大学病院	河本 由紀子 神戸薬科大学
江頭 伸昭 九州大学病院	北川 航平 岡山県精神科医療センター

木村 健	兵庫医科大学病院
黒田 智	岡山大学病院
監物 英男	川崎医科大学総合医療センター
小沼 利光	岡山大学病院
小山 敏広	岡山大学
五郎丸 剛	福山大学
佐々木 緑	重井医学研究所附属病院
座間味 義人	徳島大学病院
杉山 哲大	津山中央病院
須野 学	岡山大学
高取 真吾	松山大学
高根 浩	鳥取大学医学部附属病院
高橋 正志	マスカット薬局
高柳 和伸	倉敷中央病院
西原 茂樹	岡山大学病院
西村 信弘	国際医療福祉大学
橋本 保彦	神戸学院大学
開 浩一	広島市立広島市民病院
藤吉 正哉	岡山大学
藤原 聡子	岡山大学病院
毎熊 隆誉	就実大学
槇田 崇志	岡山大学病院
松尾 宏一	福岡大学筑紫病院
松永 尚	佐賀県医療センター好生館
松本 准	岡山大学
松山 哲史	岡山市立市民病院
室井 延之	神戸市立医療センター中央市民病院
森 英樹	岡山赤十字病院

事業成果

第 28 回日本医療薬学会年会を、平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）～25 日（日）の 3 日間、神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル本館（兵庫県神戸市）において開催した。参加者は国内からの招待者を含め 9,418 名、招待者を含め 9,500 名を超える参加者となった。

本年会のテーマは「医療薬学の持続的進化のための新たなパラダイム構築 ～教育・臨床業務・研究～」とした。組織委員長は当薬剤部の北村佳久准教授が務め、橋田亨、岡崎昌利、村川公央、名和秀起の 4 名の副組織委員長と会の運営にあたった。特別講演 1 では岡山大学病院臓器移植医療センターの大藤剛宏先生が「肺移植の革新」を題して、慢性的にドナー不足に悩む本邦での移植医療、特に肺移植の抱える課題についてご講演があった。特別講演 2 では Sinfonia Rx, の Sandra Leal 先生が「Integration of clinical pharmacy service: implementation, research, outcomes, sustainability」と題して、アメリカで薬剤師を中心に行われている個々の患者の健康成果を最適化するように設計されたパーソナライズドサービスについてのご講演があった。特別講演 3 では岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の西堀正洋先生が「敗血症病態の新しい理解と治療法の開発」と題して、生命を脅かす臓器障害を伴う感染症であり、重症化すると致死性の極めて高い敗血症について、敗血症病態形成における循環好中球の制御の重要性と、血漿タンパクである Histidine-rich glycoprotein をその低下レベルに応じて治療薬とするのご講演があった。教育講演 1 では大分大学名誉教授・創薬育薬コミュニケーション協会の中野重行先生が「医療コミュニケーション：治療医学における意義」と題して、臨床薬理学と心身医学を専門にしてきた医師として、特にこの 20 年にわたって医療コミュニケーション教育と模擬患者や臨床研究コーディネーターの育成に携わってきた視点から、医療コミュニケーションの治療医学における意義についてご講演いただいた。教育講演 2 では社会医療法人清風会岡山家庭医療センター奈義・津山・湯郷ファミリークリニックの松下明先生が「家庭医療専門薬剤師レジデンスとプライマリ・ケア領域での薬剤師教育 – 家庭医の立場から – 」と題して、家庭医療専門薬剤師レジデンスについて、薬剤師が家庭医療やプライマリ・ケアの概念を身に着けた地域で役立つ薬剤師の育成の現状と今後の日本のあるべきプライマリ・ケア像についてご講演いただいた。

特別シンポジウムでは、近年話題となっている AI（人工知能）に関する内容を企画した。高度な技術が進み、現在、各産業において AI（人工知能）の研究がなされ導入が進んでいるなか、薬剤師の活動の場にも具体的な導入事例が散見されるようになり、AI に関する話題注目されるようになった。調剤業務は、患者への問診がパターン化され AI を利用できる部分があるといえる。さらに人間以上に早く、正確に医薬品を提供できる可能性が考えられる。薬剤師は AI に得意分野は任せ、薬剤師本来が持つ職能を発揮しさらに薬物療法の充実に努めていくことができると考えて、討論していただく機会を設けた。

公募シンポジウムは応募数 99 件の応募をいただき、66 件を採択した。チーム医療や病診薬連携を基にした薬物療法に関するスペシャリストとして、医療現場において大きな役割を担い活動する日々の成果に関する企画が多くみられた。本年の国際シンポジウムについては、同じ会場で第 16 回日中韓合同注射薬臨床情報学シンポジウムが開かれていたこともあり、終日国際的な雰囲気であった。本年は日本、中国、アメリカ、韓国、タイからの参加があり、年々確実に変わっていく各国の薬剤師の現状について発表があった。

一般演題については口頭発表が 360 題、ポスター発表については 1,386 題が採択された。ワークショップは 3 企画が実施され、どの企画も薬剤師が求める内容を実際に体験できるとあって、参加者が熱心に受講していた。また、メディカルセミナーも 43 企画が最新のを提供し、ほぼすべての企画が参加者で埋め尽くされる盛況ぶりであった。優秀演題に関して口演の各部門から 10 題を表彰させていた

だいた。市民公開講座は岡山大学大学院医歯薬総合研究科の菱川望先生と、オフィスチャイトラタの高橋依子先生が「東洋医学と西洋医学がお勧めする認知症予防のための食事法・運動峰」と題し、実技を加えての楽しい市民公開講座となった。

今回は、事前に入場者を考慮し余裕を持った会場の確保に努めたが、過去最多の参加者となったこともありいくつかの会場では席が不足しご不便をおかけしたことを反省点として挙げる。しかし、全体としては大きな混乱もなく、無事に盛会のうち終えることができた。日本医療薬学会理事会・事務局のご支援と、組織委員・実行委員など多くの方々のご尽力の賜物であり感謝申し上げます。

第28回日本医療薬学会年会 優秀演題一覧

演題番号	筆頭演者氏名	筆頭演者所属	演題名
23-13-O9*-2	田口 怜奈	浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部	産褥期女性における CYP3A 活性の内因性マーカーおよびアムロジピンの血中挙動の定量的評価
23-13-O10*-5	津下 遥香	大分大学医学部附属病院	eGFRcys/eGFRcreat に影響を与える副腎皮質ステロイド用量のカットオフ値の算出
23-13-O11*-2	合田 光寛	徳島大学病院 薬剤部	シスプラチン誘発腎障害に対する新規予防薬の探索とその有効性の検証
23-13-O12*-2	橋本 昂介	九州大学病院 薬剤部	抗がん薬廃棄容器の曝露調査と保管管理方法の検討
23-14-O15*-3	植田 貴史	兵庫医科大学病院 感染制御部	腎機能正常例に対するバンコマイシンの初回負荷投与の有用性に関する検討
23-14-O16*-5	小田原 瑛理	昭和大学 薬学部 基礎医療薬学講座 薬剤学部門	アムホテリシン B 含有ガム製剤の開発～アムホテリシン B の溶出及び効果の持続～
23-14-O17*-1	雨宮 貴洋	東京大学医学部附属病院薬剤部	急性期病棟におけるタゾバクタム・ピペラシリンによる薬物性肝障害発症リスクの、性差を考慮した評価法の構築
23-14-O18*-2	阪田 安彦	(地独) 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 薬剤部	抗 VEGF 抗体関連尿蛋白出現患者における 24 時間蓄尿中の尿蛋白定量と随時尿蛋白クレアチニン比との関連についての前向き研究
23-15-O23*-3	下石 和樹	熊本赤十字病院 薬剤部	血液透析患者が服用する内服薬・サプリメント中の無機リン含有量に関する調査～効果的なリンコントロールのために～
23-15-O24*-5	齊藤 順平	国立成育医療研究センター 薬剤部	抗体製剤 Tocilizumab の母乳中移行性および哺乳児への安全性評価に関する症例報告

優秀演題最終選考委員

千堂 年昭	優秀演題最終選考委員	岡山大学病院 薬剤部
北村 佳久	優秀演題最終選考委員	岡山大学病院 薬剤部
池末 裕明	優秀演題最終選考委員	神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部
松尾 宏一	優秀演題最終選考委員	福岡大学筑紫病院 薬剤部
西村 信弘	優秀演題最終選考委員	国際医療福祉大学 薬学部
江角 悟	優秀演題最終選考委員	岡山大学病院 薬剤部